

組織目標評価報告書（令和6年度）

部署名:		学域名:	部署長名:
大学院環境生命自然科学研究科		環境生命自然科学学域	鶴田 健二
目 標・取 組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)	
①教育領域	関連する 中期計 画の番 号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
① 定員充足率: 博士前期・後期ともに100%以上 ・国費優先配置枠の新規確保により、海外の優秀な学生の確保をはかる。 ・先取りコース(WAAP, FlexBMD)、OU-SPRING/OU-BOOST-AIへの積極勧誘を通して、優秀な博士前期課程生の博士後期課程への内部進学者数を増加させる。 ・博士後期課程へのリカレント生の積極誘致 ② プロジェクトマネジメント実習、プラクティカムの履修徹底 ・これらの科目の未履修のみが理由で修了不可となるような学生をゼロとする。そのために、本年度設置のキャリア共創開発室によるインターンシップガイダンス等を通して履修指導を徹底する。 ③ 学生海外派遣数: 前年度よりも増加させる ・JASSOの協定派遣、日台科学教育交流会事業、EPOK等をおとして留学を強く推奨する。 ・プロジェクトマネジメント実習、プラクティカムの一環として国際交流協定校等への短期研修プログラム等を構築して派遣数増加をはかる。	7-1 9-1 4-1 7-1	① 定員充足率: 博士前期 = 120%以上、博士後期 = 114.6% ⇒ 目標達成 国費優先配置を積極的に申請し、R7年度にも新規で確保に成功した。 ② プロジェクトマネジメント実習、プラクティカムの履修徹底: 目標達成 年2回のプロジェクトマネジメント実習単位申請期間後に単位修得状況を集計し、各種会議で状況を構成員に報告、履修指導の徹底を頻繁に依頼した。その結果: (MC) 改組後初の博士前期の学位論文提出者全員がプロジェクトマネジメント実習を履修し、学位授与予定。 (DC) 新研究科初の博士後期早期修了者2名ともにプラクティカム修得 ③ 学生海外派遣数: 目標達成 主に、下記3つの取組みを通して、昨年度より派遣数増大に成功(10日以上は31名) ・日台科学教育交流会事業による短期研修(OU-TACT)により19名派遣 ・「大学の世界展開力強化事業」採択による年度内2名派遣 ・JASSOによる協定派遣プログラムに採択により、4名派遣	
②研究領域	関連する 中期計 画の番 号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
★ 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)への直接的な寄与となる取組を特に重点的に支援する。 ① 科研費: 継続&新規採択率75%, 応募教員率100% ・研究科科研費セーフティネットで大型種目への挑戦を促す。添削数増加促進。 ・未申請者へヒアリングを実施する。応募数増加が新規採択率を下げるとしても、まずは未申請者ゼロを目指す。 ② Q1ジャーナル&若手研究者論文数: 各々で対前年度比5%以上の増加 ・昨年導入した科長裁量費・若手支援事業により、Q1ジャーナル投稿を促進する。 ③ 国際共著論文数: 前年度よりも増加させる ・国際拠点形成に向けた提案や科研・国際化加速への応募に対する研究科支援を実施する。 ④ 共同/受託研究・寄付金受入れ件数・金額: 前年度よりも増加させる。 ・研究推進委員会ならびに「外部資金獲得サークル」による公募情報・企業からのニーズ情報等の迅速共有。 <研究科の系としての目標・取組> ※研究科の系として独自の目標・取組がある場合は、こちらにご記入ください。	8-1 8-1 9-2 8-1 8-2	① 科研費: 目標未達 ・ R7年度課題の継続・新規: 62.5%, 応募教員率は95.5% ・課題保持&申請率は(工)工では100% ・R7年度基盤A採択数増加 ・R6年度、R7年度連続で科研費基盤Sが1件ずつ採択 ② Q1ジャーナル論文数: 目標未達(-0.8%) 若手(40才未満)研究者論文数: 目標未達(R07.03.06時点で+1報) ③ 国際共著論文数: 目標達成(+11.2%) ④ 共同研究・受託研究・寄付金受入れ件数: 目標達成(金額・件数ともに100%超え)	
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計 画の番 号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
① 社会課題に対応する共育共創プログラム構築(継続): ・インターンシップ派遣・共同研究への学生参画、特に留学生の地域貢献&定着を推奨する。 ・学内の半導体研究教育WGと中国半導体産業協議会との連携を通して、半導体人材育成のターゲットをMCから学部生、県内他大学学生へと広げ、地域の関連産業に貢献することを目指す。また、大学院では、昨年度に引き続き、「おかやま半導体人材育成プログラム(仮称)」のR7年度のサブプログラム化を検討する。	8-2 4-1	① 共育共創プログラム構築(継続): ・キャリア共創開発室の活動を通して、留学生のインターンシップ派遣、キャリア支援を重点的に実施した。 ・学内外の半導体人材育成活動として、本年度は、下記4つの関連科目を、主に夏期集中科目として開講、一部は地元企業等技術は向けに公開講座とした。 i) 理系MC+企業技術者向け(4日間集中) ii) 理系学部1年生+一般社会人向け(2日間集中) iii) 文系(経済学部)学部生向け: 経済学部の経営組織論講義(15コマ)の中で企業経験者等の講師を招聘 iv) 学部一般教養科目(3日間集中、含工場見学)	
④管理運営領域	関連する 中期計 画の番 号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
① 女性教員割合: 過去3年平均値からの増加 ・優秀な女性教員獲得策を検討する。例えば、世界中から優秀な女性・若手教員候補者に応募してもらうための情報収集チームを編成する、など。 ・本学からの離職数を減らすよう、環境改善・整備策を検討する。 ② 若手教員・外国人数員割合: 前年度比1%増 ・科長裁量費・若手支援事業による研究環境確保をはかる。 ・外国人教員・客員教員等受入に伴う事務作業効率化策を検討する。具体的には、国際担当の事務補佐員の雇用経費確保、事務職員の海外研修や部局業務のための海外出張に積極的な同行を促す。 ③ 新研究科広報活動(特に海外向け)推進 ・昨年度に引き続き、海外協定校向けオンライン説明会、国際イベント開催を企画する。 ④ コンプライアンス指導の実質化: ・(上記①とも関連) ハラスメント対策をより有効にする学域独自の施策導入を検討する。	11-2 9-2 その他	① 女性教員割合: 前年度から微増、過去3年平均(8.8%)からは1.1%増 ⇒ 目標達成 ② 若手教員・外国人数員割合: 若手教員1%増、外国人等0.3%増 ⇒ 一部達成 ③ 新研究科広報活動(特に海外向け)推進 プレスリリースの研究科HPへの積極掲載、協定校向けオンラインeinar公開継続、海外協定校への教員派遣 ④ コンプライアンス指導の実質化: 緊急のハラスメント研修会実施、それに伴う受講者のアンケート実施・分析、学域全体で防止対策を議論・提案するタスクフォースの設置・活動を行った。	

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。
注2) 自己評価による達成度(5〜1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。